

子ども司書新聞

令和3年8月18日発行

第44号

2021年度（第6期）五所川原市子ども司書養成講座は、7月22日（木）から29日（木）までの6日間で行われました。10名の受講生が、暑い中でも朝から頑張っており取り組んでいました。第1回の講座では、図書館とはどういうところなのか、どうして図書館は作られたのか、図書館で働く「司書」の仕事など図書館の基本を学びました。第2回の講座では、図書館の分類体系である日本十進分類法（NDC：エヌ・ディー・シー）について学び、実際に本を分類してもらいました。司書の重要な仕事のひとつである「本の分類」は、本のタイトルや内容からどの分類になるのか考え、類推する必要があります。受講生たちもよく考え、ちゃんと分類ができていました。



第2回講座の様子

第3回・4回の講座では、本がどうやってできているかを学び、本の修理をしました。

「セロハンテープで修理はしない」ということしっかり覚えてもらい、ページが外れた時は、薄めたボンドを使って直します。乾くまで、絶対に開いたりせず、1日置いておきます。破れたページには、専用のテープを貼って直します。破れたところが一か所だけではない本がたくさんあり、1ページずつ確認して、直していきました。このように、本を修理をするのはとても時間がかかります。普段から、本は大切に読みましょう。



第4回講座の様子

第5回の講座では、板柳町民図書館に行き、図書館の見学をしました。そのあとに、板柳町子ども司書受講生と交流をして、しおり作りをしました。作ったしおりはみんなで交換し合って楽しみました。



第5回講座の様子

第6回の講座では、図書館の重要な仕事である「レファレンス（調べ物のお手伝い）」について学び、実際に調べてもらいました。今回は、市立図書館で行っているイベントの「熱中症予防津軽弁標語コンテスト」に向けて、自分で作った標語を津軽弁に訳すために本を使って調べてもらいました。津軽弁を普段使わない受講生が多く、指導する側も苦労しましたが、どの作品もセンスのあるものばかりでした。



第7回講座の様子

第7回の講座では、カウンターの仕事である本の貸出・返却、棚に本を返す作業をしてもらいました。普段図書館で本を借りにきている人は、職員がやっている姿を見ているので、自分でできてとても嬉しそうでした。第8回の講座では、本の紹介方法などを学び、板柳町子ども司書受講生におすすめ本の紹介文を書きました。第9回の講座では、読み聞かせについて学び、表紙から裏表紙までがお話だということ、間をとることなど読みきかせをするうえで気を付けることを

学びました。

第10回の講義では「プレおはなし会」が行われました。ペアになって読み聞かせをする絵本を選び、第9回で学んだことを活かして本番に挑みました。読み聞かせをした絵本は、「からすのパンやさん」「給食番長」「三びきのやぎのらがらどん」「どうぞのいす」「いつもいっしょに」の5冊です。そして、最後には、未来に向けて頑張っている人を応援する歌「パブリカ」のサビの部分で踊って終わりました。



第10回講座の様子

以上の講義を全員が受け、無事10名揃って「五所川原子ども司書」に認定されました。今後、学校などで図書に関わる仕事があれば積極的に活動してほしいと思います。図書館は全国にあります。ぜひ、大人になっても図書館を活用していきましょう。